

定期報告

2011年5月23日(月)

天候:晴れ 温度:室外 10°C 室内 22°C 湿度:50% 風:微風

放射線量:0.10 μ Sv/h:持参線量計 PalmRAD Dosimeter Model 1621M(BNC)

食事 朝:ご飯・味噌汁・納豆・漬物

昼:チャーハン・ウインナー・野菜炒め・トマト

夜:炊き込みご飯・玉子スープ・豚の生姜焼き・茄子のお浸し・かぶのサラダ

氏名:中嶋 優太(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

6:30 朝食

7:00 屋外ミーティング

8:40 診療前ミーティング

9:00 午前診療開始

本内薬剤師:調剤投薬業務、残置薬処理、救急箱リスト作成

中嶋:代表の三浦さん、保健師チーム、大阪府薬剤師会の奥田薬剤師と打合せ

患者さん向け配布資料作成

11:30 午前診療終了

11:45 本内薬剤師、角田看護師、中嶋で隔離室へ昼食配膳

12:00 昼食

13:00 午後診療開始

15:00 トイレ用擬音装置「音姫」が届く

女子トイレ設置のため角田医療チーム女性と代表三浦さん、用務員と打ち合わせ

16:00 午後診療終了

16:20 角田医師、八木橋総務担当、田中事務担当、中嶋で災害対策カンファレンスに参加

19:00 夕食、歓談

22:00 消灯就寝

大槌高校避難所ミーティング

インフルエンザ患者は回復期へ。明日には隔離解除の方針。

非避難者でインフルエンザと疑われる患者1名来所、同居家族にも抗インフルエンザ薬が予防処方された。

明日は角田医療チーム、町田チーム、保健師チームが一斉交代となるため、引き継ぎをしっかりとるように皆で確認しあった。

保健師チームから抗インフルエンザ薬の予防投与継続の依頼があった。

→保健師チーム、角田医師と抗インフルエンザ薬の在庫数を考慮し、青森医療チーム、保健師チームは計5日分、三浦代表、佐々木代表には計10日分を投与。

保健師から、以前から咳の症状がひどい患者、心臓疾患があり足のむくみがひどい患者の相談があった。

→咳の症状はあるが発熱なし、インフルエンザの可能性が否定された。

→足のむくみはあるが軽度、近いうちに内科受診するとのことで問題なしと判定。

保健師チームの動向

愛知県保健師チームは、在宅訪問を重点的に行う予定で、7月末まで派遣メンバーを決めている。しかし、仮設診療所と仮設介護施設が軌道に乗り、岩手県保健師チーム活動に余裕が生まれてきたら、予定を繰り上げて撤退するとのことだった。

救急箱設置に向けて

代表の三浦さんに救急箱設置と管理について、八つの班にそれぞれ救急箱を支給し、各班長が管理する案を説明した。

各班長には、救急箱設置の意義はご理解いただけたが、やはり仕事で不在時の運用に不安があるとのことだったため、三浦代表がいるときは本部管理とし、帰宅後は各班で持ち回りで管理することに暫定的に決まった。

また、各班で管理してもよいように、8箱の救急箱を注文した。

感染性胃腸炎発生か

大阪府薬剤師会奥田薬剤師から、大槌町内小学校避難所で感染性胃腸炎が疑われる重篤な下痢が発生していると情報提供があった。

大槌高校避難所の衛生環境は以下の通りである。

○清掃について

避難所内の清掃は、各班での当番制となっている。

毎日行うことになっているが、厳密に守られてはいない。

ある程度、掃除は行き届いている。

○調理環境

調理場は高校の調理実習室を使用している。

流し場はいくつもあるが、調理専用の流し場が決まっている。

調理者は他の作業を行わない。(トイレ掃除や配膳などを担当していない)

調理者は多くの避難者が暮らす体育館ではなく、調理場に隣接する部屋で生活している。

○食事の配膳

配膳も各班の当番制だが、トイレ掃除の班とは分けている。

配膳時はエプロン、手袋を着用し、袖口まで覆い隠すように徹底されている。

避難所における感染症予防チェックポイントにそって確認してみると

1.避難所内は土足禁止になっているか？

避難所は土足厳禁で、出入口にマットも敷いている

2.多人数の収容は避ける

当時は 900 人が収容されていたようだが、現在は 240 人まで減り、背丈ほどのパーティションやカーテンである程度少人数で仕切られている。

3.清掃、換気は行われているか

清掃は前述通り。換気は体育館ということもありなかなか難しい

4.食器はしっかり洗浄、または使い捨ての食器か

使い捨てではないときは、調理場で洗浄し、アルミラックで隙間を開けて乾かしている。

5.食事を作る方の体調

調理担当者の人数には余裕がある。休みも取れているようだ。

6.生活スペースにゴミはないか

大量のごみは屋外の屋根つきのゴミ捨て場に捨ててある。生活している体育館から 10mほど離れている。

7.手洗い、うがい、歯磨き、入浴はできているか

保健師の努力もあり、手洗い場にはハンドソープ、手指消毒薬、その方法のポップが掲示してある。歯ブラシは余裕をもって在庫しており、入浴も近くの自衛隊の風呂を利用できる。

8.トイレの利用

トイレ用スリッパ、それ以外の上履きは使い分けてある

作業療法士との情報交換

岩手県作業療法士会から釜石、大槌地区にも派遣があり、大槌高校にきていた大槌病院阿部一弘作業療法士にお話を伺った。

「各避難所を自発的に回ったり、保健師からの依頼で出向いて活動している。

体重変化や血圧測定、過去に転倒歴がないか、整形外科でリハビリ歴はないかなど聞き取っているが、椅子やベッドでの生活から床での生活を強いられるようになったため、腰や膝のオーバーワークから、活動量が落ちている人が多い。

リハビリは本人のやる気が重要であるが、病識が低い人や、あきらめている人が多く、治療を中断してしまう人が多い。大槌町にはもともと整形外科がなく、大槌病院に週に何日か釜石病院から整形外科医を派遣してもらっていた。大きな手術が必要な場合は釜石病院に送っている。」とのことだった。

トイレの環境

前任の藤川医師チームから引き継がれた女性トイレへの「音姫」の設置。

保健師から女性に対する配慮がこれから必要になってくるとの提案だった。校長先生の許可は取っており、明日学校の用務員立会いの下、設置する予定。

トイレトペーパーは前日の方法で問題なしと確認。

ドアには「トイレのスリッパに履き替えましょう」と貼り紙があるが、設置してあるスリッパの数が不足である。

明日の朝のミーティングで保健師チーム、代表の三浦さんに相談することにした。

釜石災害対策会議

本日は中嶋が同行した。城山体育館で新規のインフルエンザ患者1名。安渡小学校で食中毒と思われる下痢の患者数名。釜石地域で消化管出血を伴う下痢の患者数名。

帰りに大阪薬剤師会の奥田薬剤師と話す機会があった。

安渡小学校では水飲み場が1つしかなく、トイレ後の手洗い、掃除用具の洗浄、調理場もその近くにあるという環境だ。感染性胃腸炎の発症も強く予想される。明日保健所が入るとのことだった。水飲み場をトイレ、掃除、調理用にそれぞれ設置したり、調理、配膳を清潔な場所に移したりするなどの対応が必要になる。現実的な話ではないかもしれないが、環境が変えられないのであれば、本格的な夏を迎えるまでに避難所そのものを移してしまった方が良いのかもしれない。

奥田薬剤師は次亜塩素酸ナトリウム消毒薬を一般の人でも調整できる方法を検討しているが、届く商品によって希釈倍数が異なるため実施が難しいようだった。

他の避難所では大槌高校ほど保健師の活動が手厚くないとのこと。

これを考えると大槌高校の避難所は水飲み場や調理場の環境に恵まれ、保健師の活動が盛んで、他の避難所より環境が良いのだと感じた。

明日の予定

本内薬剤師 調剤投薬業務

残置薬の処理、返却

引き継ぎ内容の確認

中嶋

調剤投薬業務

昨日できなかった近隣開業医の状況把握、連絡体制の構築

引き継ぎ内容の確認

氏名:本内 孝典(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

6:00 起床

6:30 朝食。本当にこのチームの食事はすばらしい。

6:40 角田チームが隔離室に食事を届けた。罹患患者は平熱に戻り、体調も改善してきたとのこと。

7:00 今日は晴天だったので、参加して初めての屋外ミーティング。
大槌高校の周りを散策しながら話し合った。まだ朝の気温は高くないが、鼻をつく臭いを感じられた。「これから気温が上がるようになると臭いもきつくなるだろう」と八木橋総務。

8:40 診療前ミーティング。
感染予防のためのタミフルを避難所代表の三浦さんと佐々木さん、愛知県保健師チームにそれぞれ飲みきり分を渡した。

9:00 診療開始。
昨日に引き続き、風邪様症状を訴える方がみられるが、インフルエンザのような高熱や関節痛などの症状の方はおられない。

10:00 つくし薬局事務員が処方せんの回収に来局。
大槌高校救護所が開設されてから少しずつ溜まっていた、「調剤済みだが、患者が引き取りにこない薬」の返却をお願いしてみた。薬局長と相談のうえ、午後に返事をくれるとのこと。

11:30 午前診療終了。

- 11:45 中嶋薬剤師、角田看護師長、本内で隔離室へ昼食を届け。
- 12:00 昼食。またしてもすばらしい品々が並ぶ。自分の普段の昼食より、ここでのメニューのほうが充実している。
- 13:00 午後の診療開始。
調剤の空き時間に昨日作成した使用方法リストを救急箱に設置。
- 14:15 つくし薬局事務員が定期来局。午前中に相談した残薬の件は、「できるだけ患者さん宅に訪ねて薬の必要の有無を伺いたいのので、患者連絡先を記載した上で返却してほしい」との返事をいただいたので、明日までにわかる範囲で連絡先をまとめた資料をお渡しすることにした。
- 15:00 前任の藤川医師チームが発注したトイレ用擬音装置「音姫」が届いた。
避難所の女子トイレに設置するよう申し送りを受けていたが、取り付けに必要な工具などが準備できなかったため、設置は明日以降に持ち越し。
- 16:00 午後の診察終了。幸いに今日は新たなインフルエンザの患者はなかった。
- 16:20 角田医師、中嶋薬剤師でシープラザ釜石の災害対策カンファレンスに参加。
本内は残って夕食準備。角田看護師長、三國看護師に助けをもらいながら一生懸命しょうが焼きを焼いた。
- 18:00 部活中に肩を痛めた大槌高校生徒が時間外受診。レントゲンがとれないため県立釜石病院を受診してもらうことになった。
- 18:50 発熱を訴える子供(11歳)が時間外受診。幸い症状は軽いとのこと。
- 19:00 角田医師チームと最後の夕食。充実した夕食をいただいた。
- 22:00 消灯就寝

心配されたインフルエンザの感染拡大は幸いなことに今日はみられず、隔離室の患者もとても元気そうにされていた。

4泊5日の活動も明日で終わり、次隊へと引継ぎになる。救護所は6月12日までの予定だが、避難者している患者さんの中には「救護所がなくなると困る」と話す方もおられる。お話を聞くと、以前かかりつけの開業医が診療を仮設で再開させていることを知らなかったり、診療再開は知っていてもその場所を知らなかったりと、情報の不足がみられる。

掲示物、配布物などの情報提供が行われていても、認知されていない事が多いと感じた。情報を発信しているつもりでも被災者には思っているほど届いていないことを知らなくてはならない。

氏名:八木橋 郁夫 (総務担当)

体調:良好

行動日誌

06:00 起床

06:30 朝食準備

07:00 朝食

08:00 町田チーム朝のミーティング

08:45 診療所ミーティング

09:00 給食室責任者 佐藤氏へ本日のメニューの撮影依頼

09:30 大槌高校付近の水田・野菜苗販売所の視察

10:30 昼食準備

12:00 昼食

13:00 宿泊所掃除・ゴミ捨て・被災者食事メニューを撮影

16:20 釜石へ出発 総務は食材の調達

19:00 大槌高校帰着

19:30 夕食

22:00 就寝

本日は午前1時間、時間をいただき葛西総務から情報をもらった野菜苗販売店と水田に行ってきた。

野菜苗販売店は、津波の影響はなかったが、例年の10分の1も売れていない。

次に水田区域に行き、代かきと田植えの作業を見学した。大槌町では主にあきたこまち・ひとめぼれが栽培されており、販売目的ではなく自分達で食べる分だけ栽培している方が多い。津波の影響で、町の下手倉庫に保管していた種籾が全滅したが、山手の農家からの支援で供給され無事に田植えが出来たとのことだった。